

NGO 神戸外国人救援ネット・ニュースNo.71

NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE NEWS No.71



発行／NGO 神戸外国人救援ネット(代表／飛田雄一)

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 1-28-7 TEL&FAX:078-271-3270

ホットライン専用 TEL:078-232-1290

E-mail:gqnet@poppy.ocn.ne.jp * <https://gqnet.jp/>

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

★ 巻頭言★

国境を越えて底流で繋がる“多文化共生”と“国際協力”

日比野純一 (FM わいわい)

私が阪神・淡路大震災の後に神戸で活動を始めた頃に、NGO 神戸外国人救援ネットの前身の集まりでアジア女性自立プロジェクト (AWEP) のもりきかずみさん(当時の代表)に初めて会ったのは、1995年3月だったと記憶しています。AWEPは震災の前年から活動を始めた団体で、東南アジアなどから渡ってきた在住外国人女性の自立支援活動に取り組んでいます。外国人女性が日本社会で自立して生活できるように、やさしい日本語や母語による情報提供などの活動を続けています。さらに女性達の故郷フィリピンやネパールなどの家族や友人達と繋がって製品づくりを支援して、それをフェアトレード商品として日本で販売する、いわゆる“国際協力”活動にも力を入れています。

震災からだいぶ時が経った時に、「活動メンバーも少ないのに、どうして国内と海外の両方で活動するのですか?」と、もりきさんに尋ねると、「経済的な理由で言葉や文化のわからない国に来て苦勞している女性達が、一人二人でも、自分の生まれ育った地域で暮らしていけるようにしないとね」と話してくれました。そして、こう付け加えました。「彼女達が抱える問題は、国境を越えて底流で繋がっているから」と。この言葉は、神戸市長田区で多文化なまちづくりに取り組んできたFMわいわいが2007年からインドネシアで活動を始めることになった基本理念の一つになっています。

阪神・淡路大震災から四半世紀余りが経ち、日本で暮らす海外にルーツを持つ人達を取り巻く環境はどれだけ改善されたのでしょうか。コロナ禍で外国人労働者を取り巻く日本社会の問題は、いぜんとして深刻な状況にあり、紛争や戦争でシリアやアフガニスタン、ミャンマー、パキスタンからたくさんの人達が難を逃れて日本に渡ってきています。難民、移住労働、人身売買、差別、暴力、所得格差の拡大(貧困)、気候変動などは、国境を越えて国内と海外を貫

通する問題です。

今、コロナ禍を境にこれまで途上国で国際協力活動に取り組んできたNGOが在日外国人の支援活動を始めています。また2020年度の政府「外国人材受け入れ・共生のための総合的対応策」に「地方公共団体やNPO等が実施する共生社会の構築に向けた取り組みを、JICAが全国に配置している国内拠点との連携を通じて推進する」と記されたことで、これまで途上国支援を本業としてきたJICAも副業ではなく本業の一つとして在住外国人の支援や多文化共生に関わる事業に取り組むことになりました。

国内で在日外国人支援に取り組んでいる団体と、移住労働者や難民の送り出し国などで国際協力に取り組んでいる団体が協力をして、それぞれの経験や知識を生かして、国境を越えてシームレスな課題の解決をしていく動きが出てきています。

そうしたことを踏まえて、兵庫県内で国際協力や在日外国人の支援に取り組んでいるいくつかのNGOとJICA関西がネットワークする「兵庫・国際協力同志の会」(HYOMIC)は、多文化共生と国際協力の融合をテーマにしたセミナーを2020年度と2021年度に開催しました。そのセミナー(2021年度)の記録と新たに執筆した原稿を掲載したブックレット「多文化共生と国際協力の出会い～国境を越えてつながる一人ひとりの尊厳～」を、この3月に名古屋外国語大学吉富志津代研究室とともに出版しました。国境を越えて底流で繋がっている問題解決の一助になれば幸いです。

PDF版はオンラインで「多文化共生と国際協力の出会い」と検索すると無料ダウンロードできます。

また、冊子をご希望の方は、FMわいわい宛(〒653-0052 神戸市長田区海運町3-3-8)に切手250円分を送ってください(先着20名、一人一冊)。

兵庫県 外国人を対象とした居住支援活動事業

移動相談会 in 西脇

北村広美(多文化共生センターひょうご)

「西脇市にアフリカ系の派遣労働者が激増している。内視鏡検査の希望がよく来るのだが、問診票の翻訳をしてほしい」という相談が最初に入ったのは 2020 年秋のことであった。以後、教育委員会等からも相談や情報提供を得ることがあり、現状把握と対応のためにも長らく実施していなかった移動相談会を久しぶりに実施、ということで 1 月 16 日に「西脇市複合施設みらいえ」にて移動相談会を実施した。救援ネットからは通訳者含め 5 名、それに加え PHD 協会から 4 名が参加、また当日までの準備と現地コーディネートでお世話になった西脇市の福祉職の 2 名も合流し、大所帯での体制となった。

あらかじめ 1 組の予約を受けていたものの、広報機関も短い中、何人が来るか？と不安もあったが、開始時刻直後から絶えることなく相談者が訪れ、結局終了時刻ぎりぎりまで対応が続くこととなった。来所があるかと思われたアフリカ系の住民は、派遣先の変更等でほぼ来られず(関係者によると九州方面に移動した模様)、多かったのはベトナム人の相談者であった。相談内容は在留資格や仕事のことなど多岐にわたっており、中には親族で複数の内容を相談するという事例もあった。近年どこの地域もベトナム人住民は増えているが、西脇市に関しては背景が比較的多様であり、ニーズに対応できるネットワークづくりが課題であることがわかった。

初めて実施した地域で、かつ国際交流協会や外国人関連 NGO など組織だった活動もあまりみられない(日本語教室は定期的に活動している)中、多くの来場者があったのには、地域の福祉関係者や行政職などの横のつながりがあったことが大きい。当初のアフリカ人に関する相談から情報交換をしていた現地のケアマネ氏が、会場選定や予約、広報などを引き受けてくれたが、その際に行政関係者や地域の日本語ボランティア等に広く声かけをしていただいた。また別件で以前より情報交換をしていた教育委員会人権教育課の担当者からは、学校関係だけでなく家族が勤務する職場にも働きかけがあり、結果ここからの広報が参加者増につながった部分大きい。また、会場となった「みらいえ」は図書館や男女共同参画センター、こどもの居場所などの機能をもった、さまざまな人々が集まれる場であり、外国人も含め住民になじみのある場所で、相談がなくても立ち寄れる雰囲気であった。この相談会をきっかけに、外国人住民の利用が増え、地域住民との距離が近くなることで、より早期の課題解決につながればと思う。



左: 相談会メンバー 右上: 多言語資料

右下: 支援食料

2021 年度 ひょうご多文化共生総合相談センター (週末相談)事業実施報告

2019 年 4 月 1 日より「ひょうご多文化共生総合相談センター」がスタートしました。月～金 9 時～17 時は(公財)兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンターが、土・日曜日 9 時～17 時は NGO 神戸外国人救援ネットが担当しています。以下に 2021 年度の相談件数をご報告します。

相談件数【週末】 367 件 (※NGO 神戸外国人救援ネットが担当した土曜日・日曜日分)

相談言語【週末】

日本語	英語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	中国語	ベトナム語	アラビア語	フランス語	ロシア語	韓国語
121	88	66	56	13	9	4	4	3	2	1

相談内容【週末】

出入国	医療	暮らし	住居	労働	社会保障	婚姻	教育	国籍等
88	62	48	44	38	34	34	16	15

税金	交通事故	就職	日本語学習	運転免許	ボランティア	ビジネス	その他
9	4	3	2	1	1	1	22

相談件数【全体】 3,737 件 対前年度比 2.9%増 (2020 年度:3,630 件)

(※外国人県民インフォメーションセンター + NGO 神戸外国人救援ネット)

相談言語【全体】 スペイン語 1,672 件、ポルトガル語 650 件、日本語 565 件、英語 412 件、中国語 312 件

相談内容【全体】 「医療」841 件、「暮らし」704 件、「社会保障」413 件、「出入国等」336 件、「教育」311 件

(兵庫県「2021 年度ひょうご多文化共生総合相談センターの相談状況」

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20220520_10209.html)



共感寄付へのご協力ありがとうございました

NGO 神戸外国人救援ネットは、2018 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの間、ひょうごコミュニティ財団が実施する「共感寄付」に参加し、「すべての外国人が安心して暮らせる“多文化共生社会”実現のために」400 万円を目標として寄付をお願いいたしました。

その結果、**244 件、計 3,612,700 円**の寄付をお寄せいただきました。本当にありがとうございました。頂きました寄付は多言語ホットライン、通訳同行支援など支援活動を行うために必要な、通訳者の謝金、交通費に当てさせていただきます。

共感寄付に再び参加することになりました際には、改めてご案内いたします。

NGO 神戸外国人救援ネットのホームページ URL が変わりました。

リンクを貼ってくださっている方は、お手数ですが変更をお願いいたします。

新アドレス⇒ <https://gqnet.jp/> (旧アドレス⇒ <http://gqnet.webcrow.jp/>)





2021 年度 ホットライン事業報告

2年目のコロナ禍での相談は、全体として昨年度を上回る件数となった。顕著に増加するのではなく高止まりでの微増の状態であった。

国籍別ではフィリピン、ベトナムが増加し、中国が減少した。シリアの避難民の相談も一定数が継続するようになった。アフリカ諸国や東欧諸国の相談も続いていた。日本人の相談が増加したのは家族全体が問題となるケースなどにもよる。

言語別では、タガログ語の相談が第1位で、アフリカ諸国は英語圏とフランス語圏でそれぞれ英語、フランス語の通訳者が求められた。スワヒリ語やウォロフ語などの少数言語も必要となった。またシリアを中心にアラビア語の相談があり、人数が増加したベトナム語の通訳者も必要となっている。

性別では男性：女性は1：2で比率は同じ状態が続いている。

内容別では在留資格、家族関係、社会保障の上位3つは同じで、医療と住居が入れ替わった。労働、DVの新規件数は少し減少している。

2021年6月現在での兵庫県の国籍別在留外国人者数は、韓国、ベトナム、中国、フィリピン、ブラジル、米国、ペルーの順位となっている。ベトナムが中国を抜いて第2位となって急増が続いている。それだけにベトナム語での新規件数が少ないのは相談への対応がマッチできていないといえる。SNSなどでの発信や相談体制での言語対応が求められている。

【新規相談件数】 143件 【相談者性別】 男性：45名 女性：98名

【国籍別相談者数】

フィリピン	日本	ブラジル	ベトナム	ペルー	中国	シリア	韓国
57	24	11	9	7	4	4	2
ナイジェリア	ネパール	パキスタン	その他	不明			
2	2	2	17	2			

その他 内訳：カメルーン、コンゴ、ギニア、マリ、チュニジア、アルメニア、インド、ロシア、ラトビア、モルドバ、ウクライナ、イギリス、フランス、ニュージーランド、ボリビア、コロンビア、アルゼンチン

【相談内容】

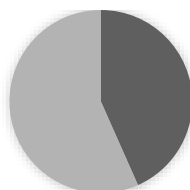
在留資格	家族関係	社会保障	医療	労働	住居	くらし	DV	教育	国籍	その他
43	23	18	18	13	13	9	7	7	4	8

【言語別】

タガログ語	日本語	英語	ポルトガル語	スペイン語	中国語	アラビア語	フランス語
51	50	18	11	10	1	1	1

【相談対応形態】

来所
81件
(57%)



電話
62件
(43%)



2021 年度 同行通訳・同行支援事業実施報告

2021 年度の同行通訳・同行支援事業による同行通訳・同行支援件数は 392 件と微増しており、400 件を超えようとしている。難民認定申請者の相談は増えており、コロナ関連での給付金等の申請、ワクチン接種のサポートなども増加した。困難ケースが増加したことから同行通訳、同行支援件数は増加しつつあり、それを支える体制を確立することが求められる。

国籍別ではフィリピンが半数近くで第 1 位、中国がそれに続いている。2021 年度はブラジルがそれに続き、ウガンダ、ブルキナファソ、シリアなどの難民、避難民の相談が増加した。

言語別では従来から対応してきたタガログ語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語と日本語でほとんどはカバーできている。アラビア語とフランス語、ベトナム語での対応を整備していく必要がある。

相談内容別では在留資格、家族関係、DV、医療、住居、社会保障、労働の順位は変わらず、それぞれの件数の増減程度にとどまっている。今年度も在留特別許可の同行相談で、在留特別許可が認められたケースがあった。

同行先は法律事務所が一番多く、相談者宅、役所、医療機関、入管、裁判所などと続き、若干の順位と件数の変動、増減はあるが同様の傾向となっている。

2021 年 6 月現在での兵庫県の在留資格別在留外国人数は、特別永住者が 31%、永住者が 23%、技能実習が 11%、留学が 8%、技術・人文知識・国際業務が 7%と続いている。

相談件数は増加しているが、まだ同行支援につながっていないケースがある。それらへウィングを伸ばせるように体制を構築する必要がある。

【同行件数】 392 件 【相談者性別】 男性：132 名 女性：266 名

【国籍別相談者数】

フィリピン	中国	ブラジル	ウガンダ	ブルキナファソ	日本	シリア	ベトナム	韓国	タイ	コロンビア	ギニア	イラン	セネガル	ポリビア	モルドバ	パキスタン	カメルーン	ガーナ	その他
188	41	29	17	15	14	13	10	9	9	7	6	5	5	4	4	4	3	2	7

【同行先】

法律事務所	相談者宅	役所	医療機関	入管	裁判所	母子寮等	教育機関	一時宿泊施設	不動産会社	警察署	法務局	救援ネット	その他
106	79	45	34	29	24	9	7	7	6	6	5	27	32

【同行内容】

在留資格	家族関係	DV	医療	住居	社会保障	労働	国籍	教育	刑事事件	その他
106	102	63	41	35	31	20	14	13	7	20

【言語別】

日本語	タガログ語	英語	中国語	ポルトガル語	スペイン語	アラビア語	フランス語	タイ語	ベトナム語	ヒンディー語
125	122	49	29	28	11	10	8	7	2	1



NGO神戸外国人救援ネット 2021 年度会計報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費および寄付金	¥1,202,852	生活相談事業費	¥2,290,454
委託費・補助金	¥7,987,924	生活相談事業費（週末相談）	¥2,952,268
助成金	¥4,590,000	同行支援事業費	¥2,806,555
事業収入	¥765,715	その他事業費	¥5,009,368
その他の収入	¥0	印刷費	¥16,544
受取利息	¥15	消耗品費	¥34,547
		資料・備品購入費	¥123,251
		通信運搬費	¥616,658
		保険料	¥27,356
		事務局手当等	¥1,913,664
		他団体への寄付・会費	¥29,000
.....		
<収入小計>	¥14,546,506	<支出小計>	¥15,819,665
		収支差額	-1,273,159
前年度繰越金	¥1,721,342	2021年度への繰越し	¥448,183
合計	¥16,267,848	合計	¥16,267,848

NGO神戸外国人救援ネット 2022 年度予算案

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費および寄付金	¥2,410,000	生活相談事業費	¥2,656,000
委託費・補助金	¥6,614,000	生活相談事業費（週末相談）	¥2,940,000
助成金	¥3,900,000	同行支援事業費	¥2,932,000
事業収入	¥420,000	その他事業費	¥1,200,000
その他の収入	¥10,050	印刷費	¥20,000
		消耗品費	¥100,000
		資料・備品購入費	¥150,000
		通信運搬費	¥627,000
		保険料	¥10,000
		事務局手当	¥2,595,358
		他団体への寄付・会費	¥30,000
		雑費	¥20,000
.....		
<収入小計>	¥13,354,050	<支出小計>	¥13,280,358
		収支差額	73,692
前年度繰越金	¥448,183	2023年度への繰越し	¥521,875
合計	¥13,802,233	合計	¥13,802,233

2022 年度活動計画

- 1 外国人の人権擁護のための多言語で行う相談・支援事業
電話及び面談での多言語での相談及び支援活動を(1)~(4)の通り行う
 - (1) 多言語生活相談ホットラインの実施
 - ① 団体としての相談対応(電話・来所)
毎週金曜日 13:00~20:00
 - ② ひょうご多文化共生総合センター(兵庫県委託事業)としての相談対応(電話・来所)
毎週土・日曜日 9:00~17:00
 - (2) 兵庫県内各地での移動生活相談会 年数回、実施を予定
 - (3) よりそいホットライン(一般社団法人 社会的包摂サポートセンターが受託する国の事業)の多言語ラインに協力
 - (4) 入管ウォッチャーズ
多言語による収容者ホットライン
 - (5) 上記以外の相談・支援事業

- 2 外国人の地域での生活を支える事業
 - (1) 相談のフォローアップ、同行支援・同行通訳
 - (2) 兵庫県外国人 DV 被害者自立支援活動事業、神戸市 DV 被害者支援活動
 - (3) 難民申請者の生活支援
 - (4) コロナ禍での生活困窮者等支援
 - (5) 通訳者派遣、翻訳コーディネーター

- 3 外国人の居住支援事業
 - (1) 外国人の住宅セーフティーネット確立のための取り組み

- 4 外国人の人権擁護に関する調査、研究、提言事業
 - (1) 学習会・研修会の実施
 - (2) 以下の団体とのネットワーク構築と協力活動
 - ・移住者と連帯する全国ネットワーク
 - ・すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク(RINK)
 - ・ひょうご DV 被害者支援連絡会(HYVIS)
 - ・退去強制手続きと子どもの権利ネットワーク
 - ・人種差別撤廃 NGO ネットワーク
 - ・有償家事労働ネットワーク
 - ・兵庫県在日外国人教育研究協議会
 - ・外国人相談窓口担当者連絡会(GONGO)
 - ・協議離婚問題研究会(リコン・アラート)
 - ・ひょうご働く人の相談室

- 5 その他
 - (1) 組織体制・財政基盤確立のための検討と取り組み(NPO 法人化等)
 - (2) ニュースレターの発行(年 3 回 5 月、8 月、12 月)

- 6 事業実施体制
 - (1) 事務局
 - ・開所時間:月・水曜日 10:00~18:00、金曜日 10:00~20:00、土・日曜日 9:00~17:00
 - ・事務局スタッフ 1 名
 - ・適宜、アルバイト雇用や学生ボランティア及びインターンの受け入れを行う
 - (2) 運営委員会
 - ・月に一度開催し、事務局から事業実施状況の報告を受け、検討事項を共有し協議する。
 - ・運営委員会は理事と運営委員で構成される。
 - (3) 登録通訳者
 - (4) 協力弁護士

2022 年度 NGO 神戸外国人救援ネット運営委員及び協力弁護士

<運営委員>

飛田 雄一(代表、神戸学生青年センター)
 森木 和美(副代表)
 嵩本 郁(神戸公務員ボランティア)
 神田 裕(たかとりコミュニティセンター)
 日比野 純一(FM わいわい)
 金 宣 吉、フフデルゲル(神戸定住外国人支援センター)
 北村 広美(多文化共生センターひょうご)
 吉富 志津代、李 裕 美(多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティ)
 村山 勇(兵庫日本語ボランティアネットワーク)
 寺下 賢志(申請取次行政書士)
 木谷 公士郎(カトリック社会活動神戸センター)
 鋤柄 利佳(アジア女性自立プロジェクト)
 斉藤 善久(神戸移民連絡会)
 鳥本 敏明(日本ベトナム友好協会兵庫県連)
 坂西 卓郎、濱 宏子(PHD 協会)
 草加 道常(NGO神戸外国人救援ネット相談員、RINK)
 村西 優季(NGO神戸外国人救援ネット事務局)

<協力弁護士>(順不同、敬称略)

相原 健吾	白 承 豪
石田 真美	韓 検 治
今西 雄介	平野 晃子
清田 美夏	別所 美保
坂本 知可	福田 大祐
佐藤 功行	北江 康親
鄭 聖 愛	増田 正幸
仲尾 育哉	増田 祐一
野田 倫子	松本 隆行
野村 明弘	吉井 正明

主な事務局活動

*毎週(月・水・金・土・日)事務局開所、(金)多言語生活相談ホットライン

2022 年 1 月 9 日(日)「外国人が集住する地域で多文化共生するには」意見・情報交換会(オンライン)
 1 月 16 日(日) 移動相談会 in 西脇
 1 月 17 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
 1 月 27 日(木) GONGO「神戸市における新型コロナウイルス感染者の対応について」(オンライン)
 2 月 14 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
 2 月 16 日(水) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 定例会(オンライン)
 2 月 19 日(土) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 主催セミナー(オンライン)
 2 月 26 日(土) 『難民と神戸』を学ぶ講演会「神戸のユダヤ難民」(オンライン)
 3 月 13 日(日) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 主催セミナー(オンライン)
 3 月 14 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
 毎月 11 日 ダイエー神戸三宮店「幸せの黄色いレシートキャンペーン」

事務局活動時間について

★事務局活動時間は以下のとおりです。★

事務局開所時間：月・水曜日 10:00 ~ 18:00、金曜日 10:00 ~ 20:00、土・日曜日 9:00 ~ 17:00

生活相談ホットライン： 金曜日・・・英語、タガログ語、スペイン語(10:00 ~ 20:00)、
 ポルトガル語(13:00 ~ 20:00)、中国語、ベトナム語、ロシア語(事前予約制)

NGO 神戸外国人救援ネットの活動は皆さんからの会費・カンパによって支えられています。

今後ともご支援とご協力のほどもよろしくお願いします。

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

救援ネット年会費 3000 円 年 3 回ニュースレターをお届けします。